

## 鎌倉街道 中道を歩く（中山から鎌倉）

### 51: 杉山神社



中山杉山神社とも言う。現在は劔神社の兼務社である。約800年前の鎌倉時代に創建されたとされるが詳しいことは分からない。創建年代は不詳も『新編武蔵風土記稿』中山村の条に「杉山社」と記載されており、江戸時代後期にはすでに存在していたことは間違いない。杉山神社72社の一つ。

### 52: 長泉寺



高野山真言宗のお寺。長泉寺の門前に「庚申塔」(左)が1基。元禄6年(1639)に造立されたものだが、三猿の上に青面金剛が乗るといふ正統派の庚申塔。

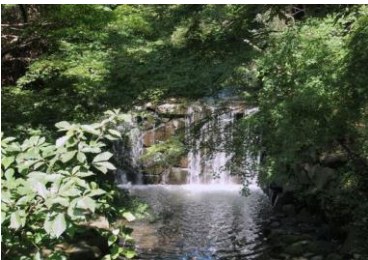


### 53: 鬢手洗池跡



文治5年(1189)奥州征伐途中の源頼朝が白根不動に祈願に立ち寄った際、この池で鬢をなでつけたと伝えられている。現在、池はなく雑草が生い茂る湿地となっている。

### 54: 白糸の滝



帷子川(かたびらがわ)の支流である中堀川にかかる幅7m、落差3.5mで、横浜市内での最大級の滝。(改修前は、幅9.1m、落差5.5mあったとのこと)

### 55: 万葉歌碑



都筑から筑紫(九州地方)に出征していく防人とその妻の歌が刻まれている。

(万葉集卷二十)

- ・我が行の息衝くしかば足柄の峰延ほ雲と見とと偲ばね  
私の旅が嘆かれてならないなら足柄の峰にかかる雲を見ながら私を偲んでおくれ
- ・わが夫を筑紫へ遣りてうつくしみ帯は解かなあやにかも寝も  
私の夫を筑紫へ送り出して、いとしさに帯を解かずに心乱れて寝ること

### 56: 白根神社



義家、頼朝にちなむ由緒のある神社であり、江戸中期から大正の頃までよく賑わっていた。社殿は新田義貞の鎌倉攻めの際に焼失したと云われていて現在のは大正時代の再建になるもの

## 57: 白根不動



元々この上方にある白根神社と一体に白龍山正願寺が管理していたものが、明治の神仏分離で寺が廃寺になり白根神社として残ったが、白根不動の方もそのまま残って共存している。本尊は弘法大師の作と伝えられる一寸七分の不動明王の座像。前9年の役(1053~1062)の際、八幡太郎義家は兜の内に不動明王座像を納めて奥州に向かい勝利。このことに報いるため康平6年(1063)に社殿を建立し坐像を祀ったのが不動堂の起源だという。

## 58: 駕籠塚



畠山重忠は治承・寿永の乱で活躍。知勇兼備の武将として常に先陣を務め、幕府創業の功臣として重きをなした。しかし、頼朝の没後に北条時政の謀略によって謀反の疑いをかけられ、二俣川で北条氏数万と闘いわずか134騎で4時間に及ぶ激戦の末42歳で非業の最期を遂げた。存命中から武勇の誉れ高く、その清廉潔白な人柄で「坂東武士の鑑」と称された。重忠の内室「菊の前」は、合戦の連絡を受け、急ぎ駆けつけたが重忠戦死の報せに自害、駕籠ごと埋葬されたと伝えられている。以前は浄水場の中に竹で囲まれた塚があったが、昭和30年ここに移された。

## 59: さかさ矢立



重忠が「わが心正かれば、この矢に枝葉を生じ繁茂せよ」と二本の矢を地面に突き刺したのが根が付き毎年二本ずつ増え茂り続けたという。

## 60: 矢畑・腰巻



北条方の放った矢が一面に突き刺さり、矢の畑のようになったということから「矢畑」と呼ばれています。また、このあたりで重忠が取り囲まれたというので腰巻や、矢が腰巻のようにぐるりと取り巻いたという説からきている。

## 61: 首塚



重忠の首は愛甲三郎によって切られ、帷子川清流の川原井戸で洗い清められこの場所に葬られたと伝えられている。

## 62: 鎧の渡し



現在は緑道として整備されているが、以前は帷子川はこの地を流れ川幅が広く、武士がここを渡る時、鎧を頭にかざし川を越えたので「鎧の渡し」と呼ばれていた。近くに鎧橋という橋名に残されている。川原には井戸があり切られた重忠の首を洗ったという「首洗い井戸」があり川原に直径1メートルほどの穴があり水が湧いていたが、埋め立てられている。

### 63:長堀通



本宿町と川島町の境界線。尾根道のような丘上を直進する車一台がやっと通れる狭い道。

### 64:大池(こども自然公園)



こども自然公園の大池は、二俣村本宿の溜池で歴史は古く、元久2年(1205)北条時政の軍勢がこの池で炊き出しをしたと記録に残っている。その後、江戸期に池は拡張され現在の大きさになった。こども自然公園内の青少年野外活動センターの手前の遊歩道を上ると、「武相国境道」の石碑:「武相堺道 北武蔵国 南相模国」とある。国境の尾根道が現戸塚カントリーの入口付近まで続いており、途中には都(鎌倉)を一望できる都塚があった。この辺りの武相国境は、地形から尾根沿いとなっており、旅人の疲れを癒す絶景のポイントが各所にあったと思われる。

### 65:都塚



武蔵の国と、相模の国の国境 鎌倉の都が一望できた。「都塚標柱」の後ろに見える小山が都塚。

### 66:地蔵堂



塚の上り口に小さな「道標」が建てられている。刻まれている方角は「南 鎌倉道」「西 武相堺道」「東 二俣川村道」。かつては武蔵と相模の国境であったが、今は戸塚区と旭区の区境。塚の上に「地蔵堂」があり、延命地蔵が祀られている。

### 67:徳翁寺



文亀3年(1503)上杉謙信氏の曾伯父上杉刑部太夫乗國郷の子憲方が父の菩提を弔う為開いた寺という曹洞宗のお寺。茅葺の素晴らしい山門だが、固く閉じられているので境内に入ることはできない。

### 68:下永谷市民の森



公園の中に入り、公園の縁沿いに進んで行く。境界線上に細道がそのまま残されている「山の中の狭い土道」。ここが横浜かと思えるような寂しい道だが、鎌倉武士が通った道だと思うとちょっと感慨深い。

## 69: 日限地蔵尊



むかし永谷村に飯島勘次郎というお百姓さんがいて、持病の「癩」という病気に苦しんでいたところ旅の僧から「伊豆国の三島にある、蓮馨寺という寺にある日限地蔵を信仰すれば、癩の痛みは、たちまち治る」と教えられ伊豆の寺を訪ねて一生懸命、祈願していると、いつの間にか癩の痛みがなくなっていた。勘次郎は蓮馨寺にお願いして、分身をいただき、永谷村に持ち帰りお堂を建て祀った。  
真言宗八木山福德院といい、日を限って願を掛けると願いが叶うと言われる。毎月4の付く日が参詣人で賑わう。

## 70: 長屋門



石垣の上に、この辺では珍しい「長屋門」

## 71: いたち川に架かる新橋



「いたち川」に架かる新橋がある。川名は漢字で表記することは難しく、また動物のイタチではなく、鎌倉武士が出陣するときの「出立川(いでたちかわ)」がなまったものといわれている。川岸に宿駅があり、鎌倉公方が武蔵国へ赴く時はここで昼食をとることが慣例になっていたそう。道標には「従是とつ加道」、「従是ぐミやうじ道」と「彫られ、とつ加道とはこのまま直進して戸塚へ向かう道であり、「ぐミやうじ道」とは「中道」のこと。川岸に延命地蔵尊と道標が立っている

## 72: 今泉村不動尊



法安寺の入口に道標を兼ねた「今泉村不動」。宝永7年(1710)に建立されたもので「今泉村不動 江之道」と刻まれている。

## 73: 笠間の庚申塔



「笠間の庚申塔」と呼ばれる4基の庚申塔が並んでいる。左から延宝8年(1680)、正徳4年(1714)、文政6年(1823)、万延元年(1860)の建立。

## 74: 青木神社



笠間の鎮守。見上げるような階段は114段

## 75: 石塔3基



青木神社入口「曲がると道路際に「石塔3基」。真ん中の石塔は道標になっており「今泉不動明王道 是ヨリ一里」と読める。右にも「今泉山不動」と刻まれている。今泉不動とは鎌倉の「称名寺・今泉不動」。

## 76: 離山富士見地蔵尊



このあたり一帯には地蔵山、長山、腰山という三つの離れた山があったことから「離れ山」と呼ばれた地名となった。地蔵堂のあたりが地蔵山。長山電機一帯が長山。腰山は旧大船撮影所(現在の鎌倉女子大のあたり)であったという。

## 77: 成福寺



三代執権北条泰時の子、泰次によって開かれた鎌倉で唯一の浄土真宗の寺。ここには映画「寅さんシリーズ」の柴又帝釈天の御前様であった俳優・笠智衆が眠っている。

## 78: 水堰橋



ここは上の道と中道との分岐点になる。鎌倉に駆け付けた武士達は、ここで勢揃いして隊列を整えた。その勢揃いが訛りに訛って「せいしく」に。さらに訛って、すいせき＝水堰 だとか。橋際にせみ志しく橋碑と観音道標が建てられている。

## 79: 円覚寺



北鎌倉駅裏の円覚寺は鎌倉五山第2位。弘安5年(1282)、執権北条時宗が蒙古襲来による殉死者を弔うために建立。階段上の「三門」(左)は天明5年(1785)に再建されたものだが掲げられている扁額は伏見上皇(1287～1298)から賜った。

## 80: 東慶寺



縁切り寺で有名な東慶寺。北条時宗夫人の覚山尼が時宗の菩提を弔うために弘安8年(1285)に開創。明治に至る600年もの間、縁切り寺法を守ってきたという。「花の寺」としても人気ある東慶寺だが、こちらの「山門も茅葺」、境内左手の「鐘楼」も茅葺だが、この鐘楼は大正5年(1916)の建設だが、下がっている梵鐘は材木座の補陀落寺から移されたもので観応元年(1350)に鋳物師の物部光連によって鋳造されたもの。

### 81: 浄智寺



浄智寺は鎌倉五山第4位。29歳で没した北条時頼の三男・宗政の菩提を弔うために創建。苔むした参道の先に見えるのは鎌倉では珍しい「鐘楼門」。

### 82: 長寿寺



足利尊氏が建武3年(1336)に創建した長寿寺。後に子の基氏が七堂伽藍を建立、僧堂も備えた大寺だった。平日は内部の見学ができず「山門」(左)まで。この門は江戸後期に造られた茅葺の四脚門。

### 83: 建長寺



建長寺入り口の総門は天明3年(1783)に建立された京都槃舟三昧院の門を移築したもの。その奥の重要文化財である「三門(三解脱門)」は安永4年(1775)に再建されたもので、別名「狸の三門」と言われている。「唐門」は唐破風造り漆塗りの四脚門。寛永5年(1628)、二代将軍秀忠夫人(お江の方)の霊屋の門として建立されたが正保4年(1647)に建長寺に寄付されたもの。

### 84: 円応寺



円応寺参道を上ると運慶の作とされる閻魔大王座像が見られる。運慶と閻魔大王の間には面白い関係が。運慶は頓死して閻魔大王の前に引き出され、閻魔様に「もし汝が我が姿を彫像し、その像を見た人々が善縁に趣くのであれば、汝を娑婆に戻してやろう」といわれ、現世に生き返された運慶が彫刻したと言われている。

### 85: 巨福坂洞門のトンネル



洞門は落石防止の為に造られたもの。近くに巨福呂坂切通しがあったのでこの名が付けられた。

### 86: 巨福坂



鎌倉七口のひとつ。小袋坂とも書く。鶴岡八幡宮裏手の雪ノ下から山之内(現在のJR北鎌倉駅付近)を結ぶ道。写真は巨福呂坂(旧道)を南側(鎌倉方面)から望む。すぐ奥は私有地のため通行できなくなっている。

### 87: 亀ヶ谷坂



鎌倉七口のひとつ。「かめがやつさか」と読む。鎌倉の北に位置し山ノ内と扇ヶ谷とを結ぶ切通である。別名、亀返坂(急坂のため亀も、ひっくり返った)と言われている。